

楽しく学び、社会科が好きになる生徒の育成

— 中学校社会科における体験的な学習の授業実践を通じて —

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（社会）

船渡 大央

本研究の目的は、中学校での社会科学習において体験的な学習を行うことで生徒が楽しいを実感し、社会科が好きになる生徒の育成ができることを明らかにすることである。

研究実践校では、社会科の授業は暗記教科であると考え、社会科が嫌いと感じている生徒が多く在籍している。模擬選挙や模擬裁判などの体験的な活動を行い、生徒が調べたいことや疑問点を導き、これらを生徒が中心となり解決する授業を行い生徒が説明したり話したりする授業展開を構想した。

本研究を通して、体験的な学習を行うことで生徒から多くの疑問点が導き出された。また、生徒同士で意見交流が活発に行われた。授業においても知識を伝達する授業や暗記をする授業が減り、疑問点を解決しようとする授業が多くなった。その結果、社会科が楽しいと実感する生徒も増え、社会科が好きになる生徒も増えた。社会科学習での体験的な学習が楽しいを実感し、社会科が好きになることが明らかになった。